

「東京都北区 GIGA スクール構想」の基本的な考え方

令和3年2月
東京都北区教育委員会

背景

1 GIGA スクール構想

国は、「GIGA スクール構想の実現」のために、学校における「高速大容量のネットワーク環境（校内 LAN）」と、義務教育段階における「1人1台端末」の整備について、令和5年度までの実現を目指した、令和元年度補正予算を編成しました。

この背景には、次のようなものがあります。

① Society5.0時代の学び

“Society5.0時代に生きる子供たちにとって、PC 端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテム”であり“1人1台端末環境は、もはや令和の時代における学校の「スタンダード」”である。（令和元年12月9日文部科学大臣メッセージ）

② 学校 ICT 環境整備の状況

令和2年3月1日時点での「教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数」の全国平均は、4.9人/台となっている。

また、PISA2018の調査結果によると、日本は他国と比べて、学校の授業におけるデジタル機器の利用時間が短く、OECD加盟国中最下位となっている。

「GIGA スクール構想」は、令和5年度までの実現を目指し動き始めましたが、令和2年になり新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、その対策として一斉臨時休業等が実施されるなど、社会情勢は大きく変化したことから、「GIGA スクール構想」におけるハード・ソフト・人材を一体とした整備を加速することで、緊急時においても、ICT の活用により全ての子どもたちの学びを保障できる環境を早急に実現する必要性が生じました。

そこで国は、「GIGA スクール構想の加速による学びの保障」のために、「一人一台端末」の早期実現や、家庭でも繋がる通信環境の整備等を盛り込んだ、令和2年度補正予算を編成しました。

このように準備が進んでいる「GIGA スクール構想」が目指しているものは、「個別最適な学び」の実現です。ここでいう「個別最適な学び」とは、次の2つに要約されます。

① 指導の個別化

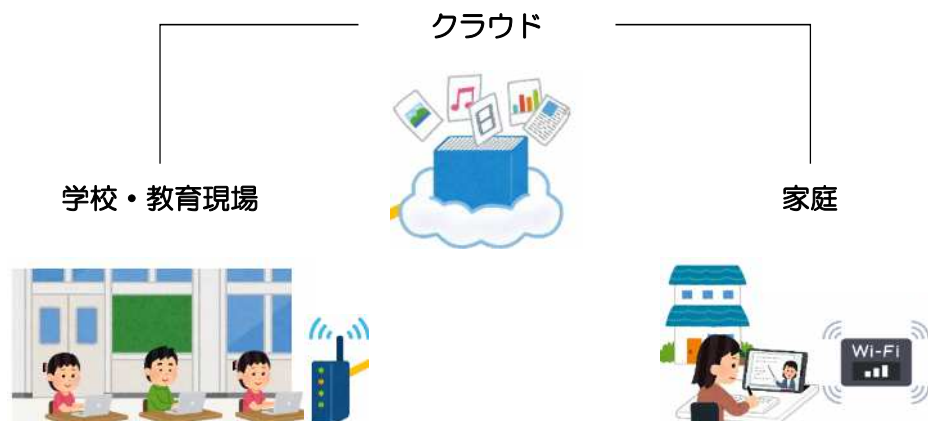
基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するため、

- ・ 支援が必要な子どもにより重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現
- ・ 特性や学習進度等に応じ指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う。

② 学習の個性化

基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子どもの興味・関心等に応じ、一人ひとりに応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する。

GIGA スクール構想の取組



- 1人1台端末の整備
- 高速大容量・機密性の高いネットワークの整備

- 家庭のオンライン学習環境整備

2 北区教育ビジョン 2020

北区教育委員会は、令和2年3月に「北区教育ビジョン 2020」を策定しました。この中で、「北区教育ビジョン 2020 の基本的な考え方」として、“Society5.0 時代を迎え、人間としての強みがどこにあるか、どのように学びに向き合えばいいのかが問われる時代に” なってきていることを踏まえ、これからの北区の教育として“大きく変化する社会に適応した施策を具現化し、激動の時代を豊かに生き抜く人材を育むとともに、「誰もが自分らしく学び、自分らしく活躍できる社会」、「ともに学び、ともに育つ社会」の実現を目指す。” ことを掲げました。

また、これからの北区の教育を具体的に推し進めるため、次のように施策を展開していくこととしています。

取組の方向	主な施策・事業
5 共に学び合い、共に成長する力を育てる	【主な施策】一人ひとりに応じた多様な学びの場の支援・指導の推進
7 社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を伸ばす	【主な施策】情報活用能力の育成 ○ 「プログラミング教育」の推進・情報活用能力の育成 ○ ICT の活用による「主体的・対話的で深い学び」の推進 【重点事業】ICT 教育の充実 ○ ICT を活用し、視覚や聴覚に印象付ける分かりやすい授業を実践 ○ 「個別学習」や「協働学習」の推進

現状・課題・期待

1 教職員・保護者アンケート

北区教育委員会は、北区における「GIGA スクール構想」の実現に向けて、教職員や保護者が ICT を活用した教育に対してどのような考えを持っているか、以下のとおりアンケートを実施しました。

	教員アンケート	保護者アンケート
実施期間	令和2年11月下旬～12月上旬	
実施方法	Google フォーム形式のアンケート URL を E メール等で発信・集計	
総回答数	4, 238件	
調査内容	ICT 活用の現状及び今後の活用推進に向けた期待・課題	家庭での ICT 活用状況及び学校 ICT 化に対する期待・不安

2 教職員の考える現状・課題・期待

(1) 現状

- ・約5割の教職員がほぼ毎日 ICT を活用している
- ・若手教員ほど ICT を活用した授業づくりに積極的である

(2) 課題（懸念）

- ・1人1台端末が実現したあとの活用方法のイメージがつかない
- ・約1割強の教職員は、ICT を月1回以下又は全く活用していない

(3) 期待

- ・1人1台端末実現後には、約8割の教員が今以上に ICT を活用する意向がある
- ・最も期待が高いのは、「デジタル教科書・ドリル教材」

3 保護者の考える現状・課題・期待

(1) 現状

- ・家庭における ICT の利用は、「動画の閲覧」や「ゲーム」が半数を占めている

(2) 課題（懸念）

- ・チャット機能等による「悪口・いやがらせ・仲間はずれ」の発生
- ・自分が子どもに使い方を教えることができない

(3) 期待

- ・最も期待が高いのは、「学校との連絡対応の効率化」

4 GIGA スクール構想の実現のために必要な対応

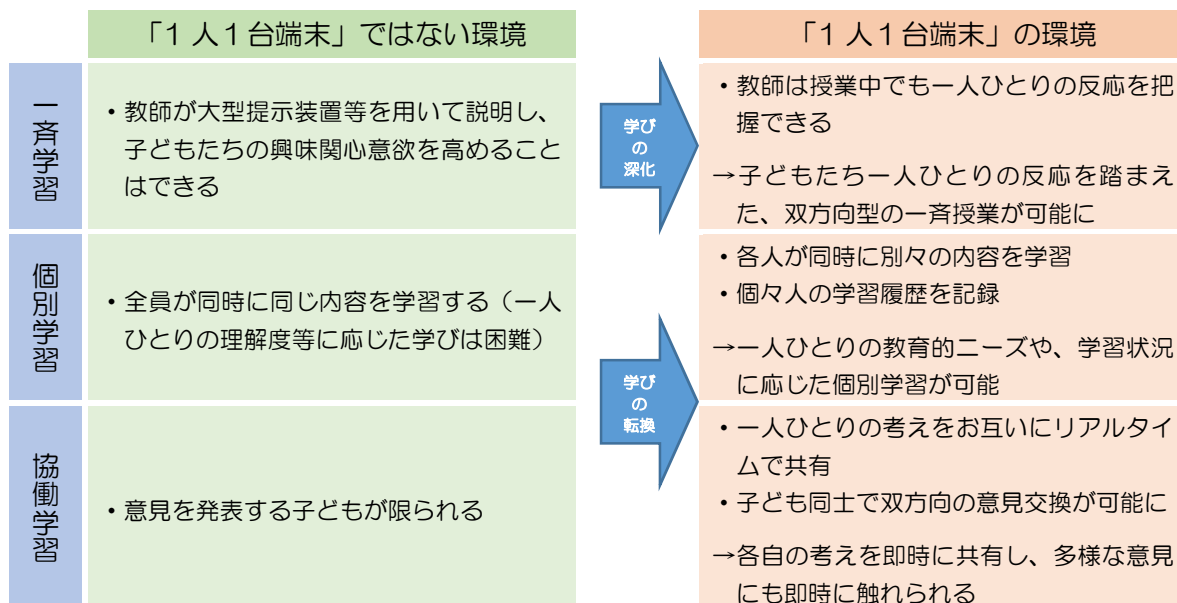
アンケート結果から、主に、教職員は「教職員間の ICT 能力の格差」があること、保護者は「児童・生徒間のトラブルの発生の恐れ」があることを課題と考えていると分かりました。教育委員会では、これらの課題を解決するために必要な対応を検討・実施してまいります。

「東京都北区 GIGA スクール構想」における基本的な考え方

1 GIGA スクール構想が目指す次世代の学校・教育現場

「GIGA スクール構想」は、1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現し、教師・児童・生徒の力を最大限に引き出すとともに、個別最適な学びと、協働的な学びを実現することを目指しています。

「GIGA スクール構想」がもたらす学校・教育現場の変化の例として、次のようなものがイメージされています。



(出典：「GIGA スクール構想の実現へ」文部科学省作成)

2 次世代人材に求められる資質・能力の育成

新学習指導要領では、各教科等の指導を通して育成を目指す資質・能力を『知識及び技能』、『思考力、判断力、表現力等』、『学びに向かう力、人間性等』の3つの柱で再整理しており、この3つの柱をバランスよく育成することが必要であるとされています。

中央教育審議会の令和3年1月答申では、急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力として、「新学習指導要領の着実な実施」と「ICTの活用」により、「一人ひとりの児童・生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」とであるとされました。

また、ツールとしてのICTを基盤としつつ、日本型学校教育を発展させ、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」と名付け、その目指すべき姿を「全ての子どもたちの可能性を引き出す、“個別最適な学び”と、“協働的な学び”の実現」としています。

ICTの活用は、「令和の日本型学校教育」の構築に必要不可欠なものになります。GIGAスクール構想におけるICT環境の整備・活用は、情報化が加速度的に進むSociety5.0時代に向け

た「情報活用能力」、「問題発見・解決能力」等の学習の基盤となる資質・能力の育成をはじめ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現にきわめて大きな役割を果たし得るものと考えられます。

3 次世代人材に求められる資質・能力を育むための ICT の活用に関する基本方針

① 児童・生徒

- ・ 自律的な ICT 利活用の推進
- ・ 段階に応じた ICT スキル習得の推進
- ・ 個別最適な学びの実現
- ・ 義務教育後も活用可能なデータ蓄積
- ・ 課題解決力向上に向けた主体的・対話的で深い学びの実現
- ・ 児童・生徒を誰一人取り残さない ICT 活用支援

② 教員

- ・ 児童・生徒間の関係性等の可視化・個別ケア
- ・ 教員の生産性向上・労働量削減に資するシステム
- ・ 学校外のリソースを活用した実践的な指導
- ・ 教員全体で ICT を推進する体制構築・風土の醸成
- ・ 円滑な ICT 活用を実現するための研修・支援の実施

4 「東京都北区 GIGA スクール構想」における ICT の活用に関する運用方針

アンケートで得られた教職員や保護者の意向等を踏まえながら、「東京都北区 GIGA スクール構想」における ICT の活用に関する運用方針について、別途策定します。

5 効果測定

「GIGA スクール構想」において、より効果的な教育の質の向上につなげるためには、実施した事業についての効果を検証していく必要があります。一方で、教職員をはじめ、児童・生徒を含む学校現場における ICT の活用状況を一朝一夕に向上させることは非常に困難であると考えられます。

このことから、あらかじめ ICT 活用状況に関する具体的な目標値を定めた上で、効果測定を行い、東京都北区 GIGA スクール構想における教育の充実を図ります。